

他専門部会からの参考意見について

総合政策審議会 企画部会で議論になった意見

意見元部会	意見の概要	意見の要旨	対応
環境・くらし部会	道路のガードレールについて、ガードケーブル化を進めるべきではないか。	・通常のガードレールでは、クマが隠れてしまい、突発的な遭遇の危険性が高まる。 ・ガードケーブル化により、道路外の視認性が高まり、回避行動が取りやすくなる。	今後、クマ対策に関するガードケーブルの有効性について、関係部署から協力をいただきながら研究させていただく。
健康・医療・福祉部会	冬期間の交通アクセスについて、交通制限による県民の不安解消を図るため、スノーシェッドや防雪柵等のインフラ整備に更に注力すべきではないか。	・人口減少により、医療機関の機能分化・連携が今後進んでいくほか、行政サービス・公共施設についても人口減少を見据えた集約が進んでいくことが見込まれる。 ・集約が進んでいく中でも県民の満足度を低下させないためには、アクセスが確保されることが重要である。 ・特に、雪国である本県においては、冬期間のアクセス確保のための積極的なインフラ整備に注力することで、県民の不安解消に繋がることが期待できる。	冬期における安全安心な道路走行環境を確保するため、スノーシェッド、雪崩予防柵、防雪柵、融雪施設等の設置と修繕を進めてきており、今後も引き続き取り組んでまいりたい。
環境・くらし部会	予算の都合もあるが、自転車専用レーンの色分けや、歩行者と自動車の物理的な分離を推進していければいい。	・法改正により、自転車走行については、原則車道走行となったことで、道路によっては自動車との接触の危険性がある。 ・走行箇所を物理的に分ける必要があるが、現状、県内の道路において分離している箇所は少ない。	自転車専用通行帯と歩道の分離については、現地の自転車通行状況を見ながら、関係機関と連携しながら検討を進めてまいりたい。